

トピックス調査レポート
「家族のこと、どう思う？」
2024年11月5日



トピックス調査レポート

Vol. 11

家族のこと、どう思う？

「家族仲が良い」と感じている小中学生は9割以上

毎年11月第3日曜日は「家族の日」。そこで今回は「家族」をテーマに調査しました。忙しい日常の中で家族全員と一緒に過ごす機会は限られていながらも、たとえばデジタルツールでのコミュニケーションや母と娘でみれば「推し活」を一緒にするなどの親子行動を通じて、家族との間で仲の良い関係性を築いていることが、子どもたちの視点を通して見えてきました。

公益財団法人 博報堂教育財団の調査研究機関 こども研究所では、全国の小4～中3の児童・生徒を対象に、子どもをとりまくさまざまなトピックスについて、子どもたち自身がどう感じ、考えているのかを明らかにすることを目的とした調査を実施しています。

1 「家族仲が良い」は9割以上。家族内の役割分担がシームレス化。お父さんもお母さんもマルチプレイヤー。

- 家族の仲の良さを聞いたところ「仲が良い計」が9割を超えました。特に小学生では約半数が「とても仲が良い (48.7%)」と回答し、家族仲の良さがわかります。中学生は小学生に比べて「とても仲が良い」のスコアが約半減しますが、TOP2計*でみると7割以上が「仲が良い (74.7%)」と感じていました。
* (とても仲が良い+まあ仲がよい計)
- 家族内の役割では、「お父さん」は「お金をかせぐ人」が最も高く87.0%。続いて「自分のことを応援」「困った時に助けてくれる」「ほめる人」「いっしょにお出かけする人」「注意する人」など精神的支えに関する役割が約7割。また家族の世話や家事も4割を超えるスコアで、家事にも関わるお父さんの姿がうかがえます。
- 「お母さん」は「ごはんを作る人 (90.8%)」が最も多く、2位、3位はお父さんと変わらず「自分のことを応援してくれる人 (89.0%)」、「こまったときに助けてくれる人 (88.7%)」でした。またお母さんはそれ以外にも家事全般や相談相手など多くの項目でスコアが8割を超える結果となりました。

2 家族全員がそろそろ限られた機会は「休日の夕ごはん」7割。

- ふだんの生活行動の「家族全員でいっしょにしている」ことで半数を超えたのは「学校のない休日の夕ごはんを食べる (69.2%)」のみ。「平日の朝ごはん」「平日の夕ごはん」「休日の朝ごはん」では、「一部の家族がいっしょ」が「家族全員でいっしょ」を超えました。

3 会話内容はお父さん・お母さんともに1位「学校」2位「友達」のこと。

- ふだんの会話内容は、全体でみると、お父さん、お母さんともに1位「学校であったこと」2位「自分の友達のこと」。3位は、お父さんでは「家族の予定やおでかけ先のこと (47.9%)」、お母さんでは「学校の先生のこと (67.1%)」。学校のことや他にも、勉強や習い事、部活やクラブ活動、自分の趣味など、多岐にわたる内容で会話していることが分かりました。

4 「ゲームやスポーツ」をお父さんと、「推し活」などの「嗜好や楽しみ」をお母さんと共有。

- ふだんお父さん・お母さんといっしょにしていることを聞いたところ、お母さんよりもお父さんといっしょにすることが多い行動TOP3は「スポーツをする (父-母差分+19.4pt)」「ゲームをする (父-母差分+13.8pt)」「スポーツの試合を観に行く (父-母差分+8.7pt)」。
- またお父さんよりもお母さんといっしょにすることが多い行動TOP3は「料理やスイーツをつくる (母-父差分+34.4pt)」「美容院・床屋さんに行く (母-父差分+23.0pt)」「好きな音楽やドラマを教え合う (母-父差分+18.1pt)」でした。

5 家族といると「安心する・ほっとする」「ありのままにいられる」。

- 家族といる時の気持ちは、全体で、「安心する、ほっとする (65.5%)」が最も高いスコア。続いて「ありのままにいられる (54.7%)」「楽しい・笑顔になれる (51.7%)」となりました。

6 小学生は家族と「同じ時間・場所」の共有、中学生は「精神的な支え」が大事。

- 「家族にとって大事だ」と子どもが感じることで「いっしょに住む (64.3%)」「いっしょにごはんを食べる (62.5%)」という「同じ時間・場所」の共有が上がるのと同時に、「どんなときでも味方になってくれる (62.7%)」「こまったときに助けあえる (61.8%)」「いっしょに楽しい時間を過ごせる (61.5%)」など「精神的な支え」に関する項目も6割以上で拮抗しています。

7 約7割が「もっと、家族と話したい」「もっと、家族の役に立ちたい」。

- 全体でみると、「もっと、家族と話したい」がTOP2*で73.8%、「もっと、家族といっしょにいたい」がTOP2*で69.8%でした。
- 一方で「もっと、家族の役に立ちたい」がTOP2*で68.5%となっており、子どもたちも、家族の一員として貢献したいという気持ちを持っていることがわかりました。
* (そう思う+ややそう思う計)

8 多くが家族の存在や支えを当たり前と思わず、ありがたみを実感。

- 家族の存在を「ありがたい」と感じた出来事として自由回答から挙げられたのは、食事や送迎といった普段の何気ないシーンから、頑張った自分を褒めてくれた思い出、進路や友達関係などで悩みを抱えてくれる時に寄り添ってくれた時間など、多岐にわたりました。大小あれど「良い時には誰よりも褒めてくれ、悪い時は味方となり寄り添ってくれる」家族の存在にありがたさを実感していました。

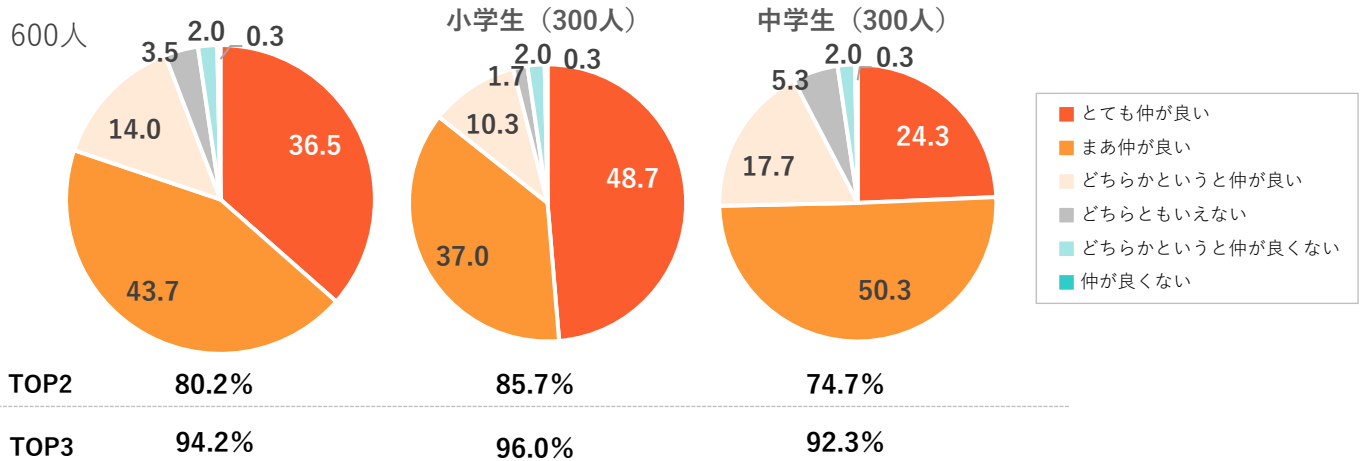
1 「家族仲が良い」は9割以上。家族内の役割分担がシームレス化。お父さんもお母さんもマルチプレイヤー。

- 家族の仲の良さを聞いたところ「仲が良い計」が9割を超えました。特に小学生では約半数が「とても仲が良い（48.7%）」と回答し、家族仲の良さがわかります。
- 中学生は小学生に比べて「とても仲が良い」のスコアが約半減しますが、TOP2計*でみると7割以上が「仲が良い（74.7%）」と感じていました。

*（とても仲が良い+まあ仲がよい計）

Q. あなたの家族は、どれくらい仲が良いですか。

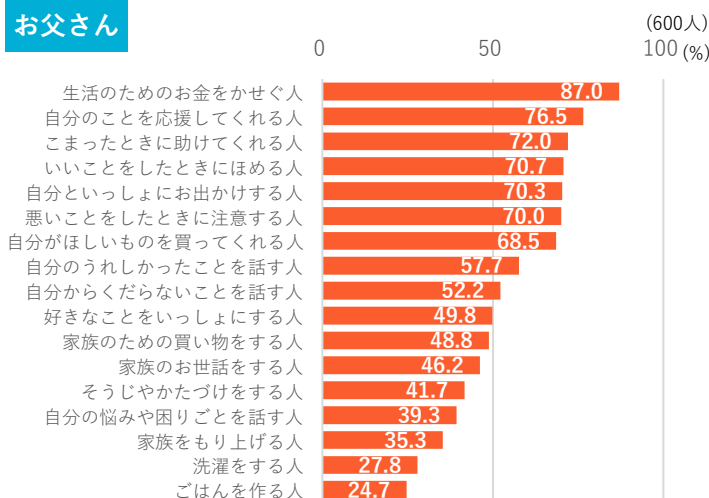
■ 全体



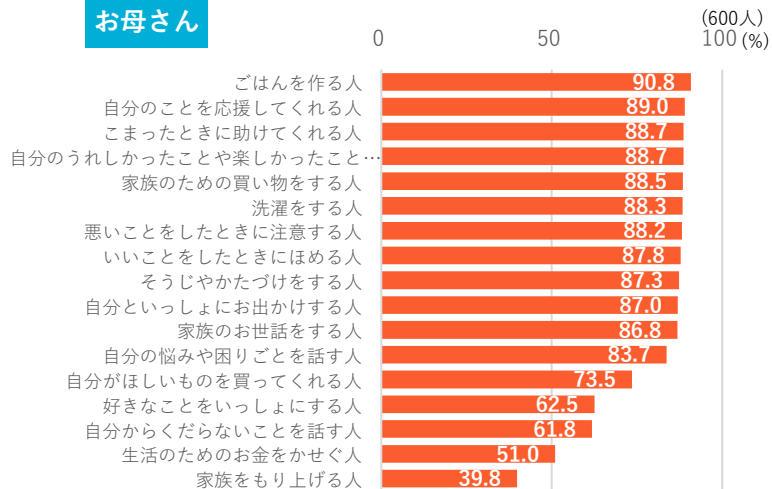
- 家族内の役割では、お父さんは「お金をかせぐ人」が最も高く87.0%。続いて「自分のことを応援」「困った時に助けてくれる」「ほめる人」「いっしょにお出かけする人」「注意する人」など精神的支えに関する役割が約7割。また家族の世話や家事も4割を超えるスコアで、家事にも関わるお父さんの姿がうかがえます。
- お母さんは「ごはんを作る人（90.8%）」が最も多く、2位、3位はお父さんと変わらず「自分のことを応援してくれる人（89.0%）」、「こまったときに助けてくれる人（88.7%）」でした。またお母さんはそれ以外にも家事全般や相談相手など多くの項目でスコアが8割を超える結果となりました。
- 子ども自身は「家族をもり上げる人（43.2%）」「そうじやかたづけをする人（24.0%）」と自認。家族それぞれが協力しながら、自分にできる役割を果たそうとする様子がうかがえました。

Q. あなたの家族の中で、それぞれにあてはまる人をすべてえらんでください

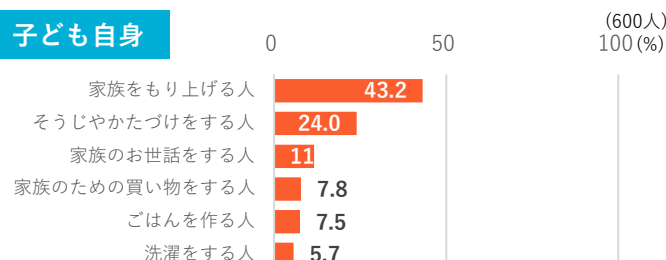
お父さん



お母さん



子ども自身



2 家族全員がそろって限られた機会は「休日の夕ごはん」7割。

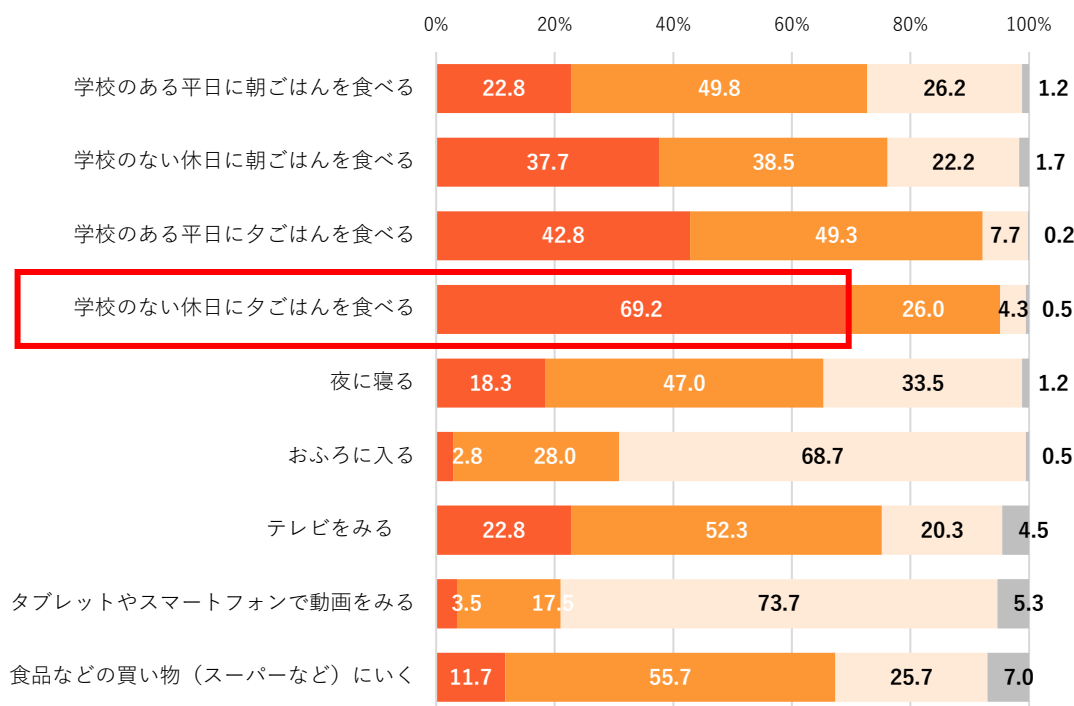
- ふだんの生活行動の「家族全員でいっしょにしている」ことで半数を超えたのは「学校のない休日の夕ごはんを食べる（69.2%）」のみでした。
- 両親の仕事、子どもの学校や習い事などの忙しい日常の中で、家族全員が一緒に過ごせる機会が限られているのかもしれない。

Q. あなたがふだん、次のようなことをするとき、家族のだれとすることが多いですか

■ 全体

600人

(600人)



■ 家族全員でいっしょにしている ■ 一部の家族の人と一緒

■ みんなバラバラにしている ■ あてはまるものはない/していない



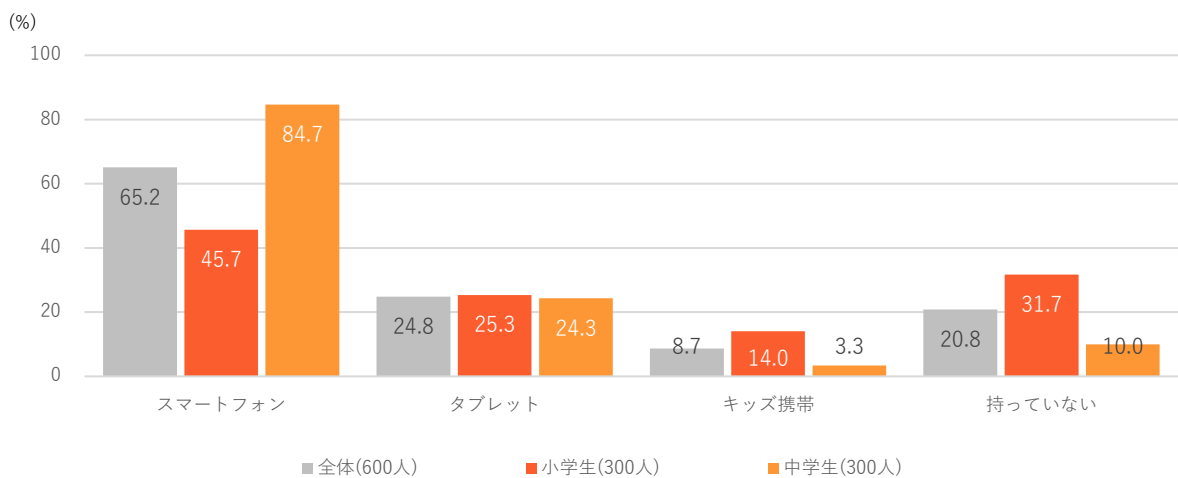
小中学生のスマホ所持者6割強が「メッセージアプリで家族と連絡を取り合う」

- 情報端末の所持について聞いたところ、スマートフォンの所持率は全体で65.2%。小学生では45.7%、中学生では84.7%。今回の調査ではスマートフォンの所持率がキッズ携帯を上回りました。
- スマートフォン所持者のうち、6割強が「メッセージアプリで個別に連絡を取り合う（58.6%）」、約半数が「メッセージアプリで家族と写真をシェアし合う（49.9%）」と回答。スマートフォンなどの情報端末を介して、家族間コミュニケーションが行われている様子が分かりました。

Q. あなたは自分専用のスマートフォン、タブレットを持っていますか

■ 全体

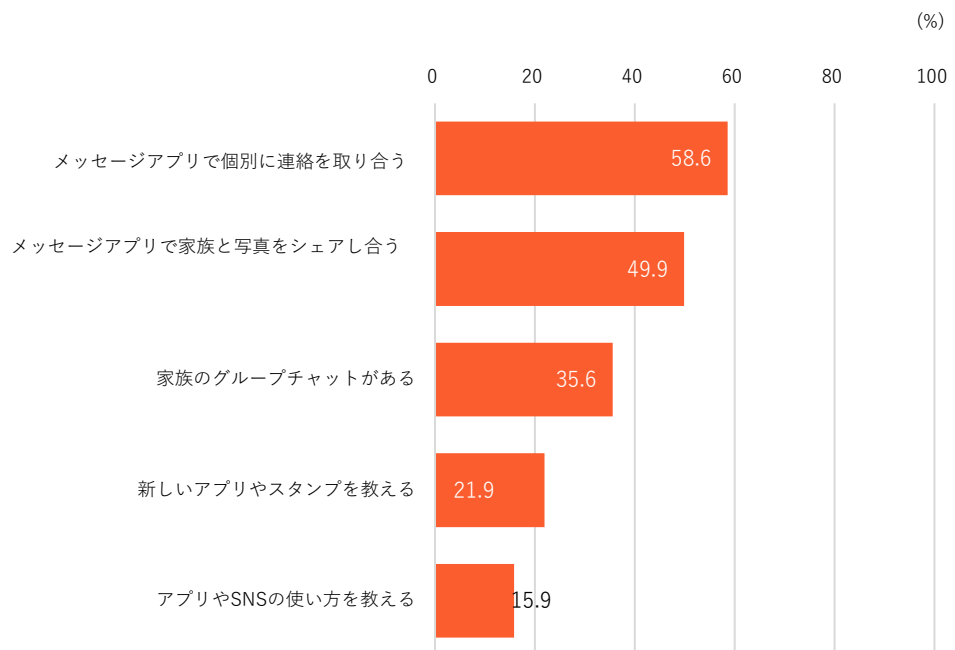
600人



Q. あなたはスマートフォンやタブレットで、どんなことを家族といっしょにしていますか。（上位5位までの項目）

■ スマホ所持者

447人



3 会話内容はお父さん・お母さんともに1位「学校」2位「友達」のこと。

- 父だんの会話内容は、全体でみると、お父さん、お母さんともに1位「学校であったこと」2位「自分の友達のこと」。3位は、お父さんでは「家族の予定やお出かけ先のこと（47.9%）」、お母さんでは「学校の先生のこと（67.1%）」でした。
- お父さんと話すことを男女別でみると、男子は「自分の友達のこと（54.9%）」や「テレビや新聞で知ったニュースや出来ごと（46.3%）」、女子は「家族の予定やお出かけ先のこと（50.8%）」について話す傾向がありました。
- お母さんと話すことを男女別でみると、総じて女子の方が話す内容のバリエーションが多く、「自分のファッションや髪型のこと（58.7%）」「自分の好きなアイドルやアニメなどのこと（47.5%）」「自分の顔やからだのこと（46.0%）」が、特に高いスコアとなりました。

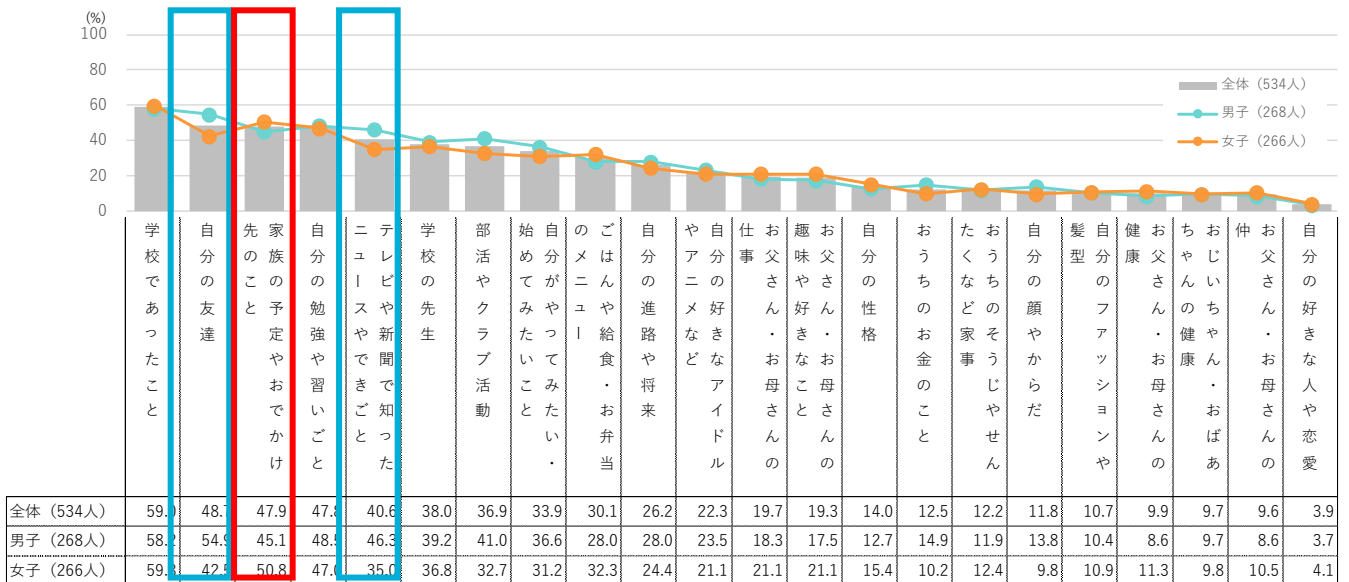
Q. あなたは父だん、お父さんまたはお母さんとどのような話をしますか（いくつでも）

■ 全体

534人

お父さんと話すこと

Q.あなたは父だん、お父さんとどのような話をしますか。（いくつでも）



■ 全体

556人

お母さんと話すこと

Q.あなたは父だん、お母さんとどのような話をしますか。（いくつでも）



男子で傾向が高いもの 女子で傾向が高いもの

4

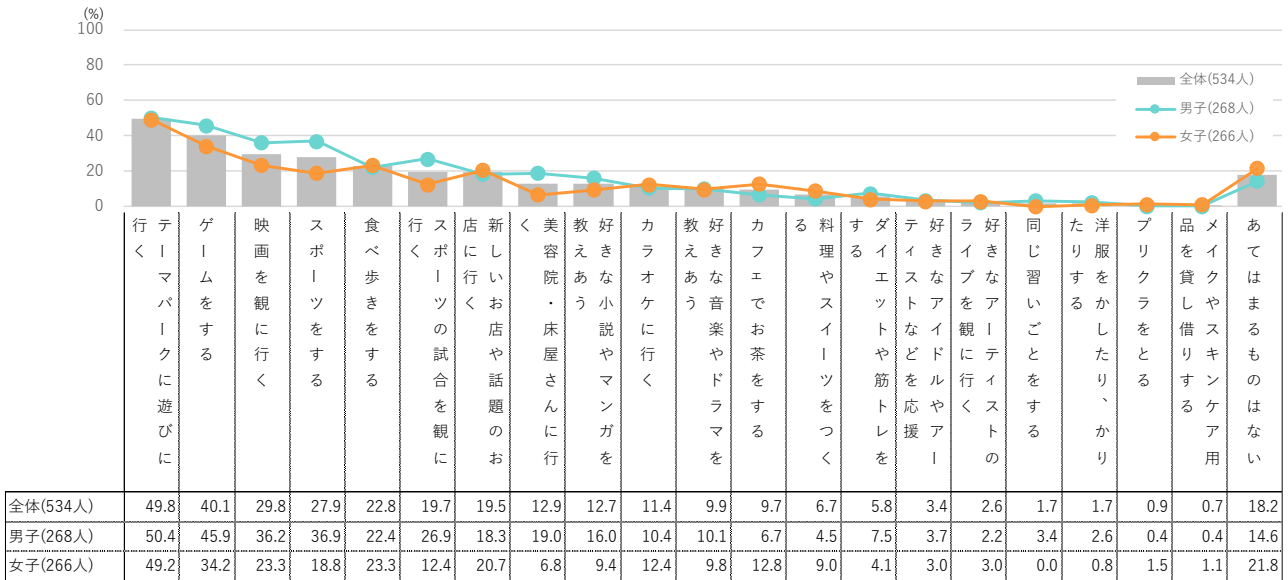
「ゲームやスポーツ」をお父さんと、「推し活」などの「嗜好や楽しみ」をお母さんと共有。

- くだんお父さん・お母さんといっしょにしていることを聞いたところ、お母さんよりもお父さんといっしょにすることが多い行動TOP3は「スポーツをする（父-母差分+19.4pt）」「ゲームをする（父-母差分+13.8pt）」「スポーツの試合を観に行く（父-母差分+8.7pt）」。
- またお父さんよりもお母さんといっしょにすることが多い行動TOP3は「料理やスイーツをつくる（母-父差分+34.4pt）」「美容院・床屋さんに行く（母-父差分+23.0pt）」「好きな音楽やドラマを教え合う（母-父差分+18.1pt）」でした。
- 男女別でみると、男の子はお父さん、お母さんいずれとも、全体と同じ傾向であるのに対し、女の子とお母さんのペア行動は特徴的。「カフェでお茶をする（38.8%）」「洋服をかしたりかりたりする（23.6%）」「メイク・スキンケア用品をかしたりかりたりする（27.9%）」「好きなアイドルやアーティストなどを応援（推し活）する（18.5%）」など、お母さんと女子の嗜好や楽しみを共有する関係性がうかがえました。

Q. あなたがくだん、お父さんといっしょにしていることはなんですか（いくつでも）

■ 全体

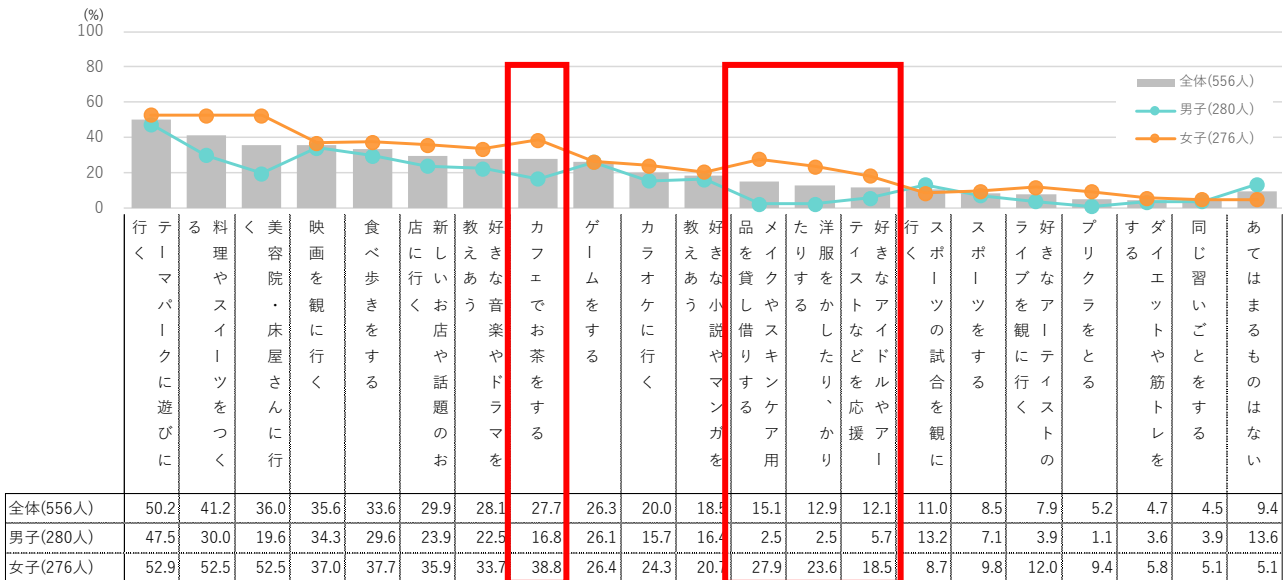
534人



Q. あなたがくだん、お母さんといっしょにしていることはなんですか（いくつでも）

■ 全体

556人



5

家族といると「安心する・ほっとする」「ありのままにいられる」

- 家族といるとの気持ちは、全体で、「安心する、ほっとする（65.5%）」が最も高いスコア。続いて「ありのままにいられる（54.7%）」「楽しい・笑顔になれる（51.7%）」となりました。
- 属性別でみると、中学生では「何も考えなくていい（50.3%）」が3位にランクイン。小学生と比較して「楽しい・笑顔になれる」はその差は-17.3ptと5位に下がるものの、家族といると時間は自然体でいられる時間なのかもしれません。

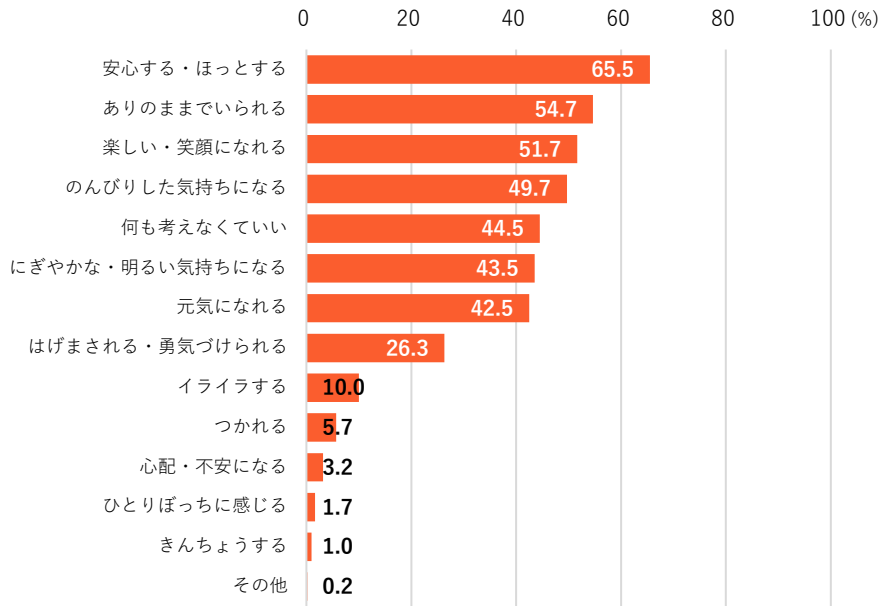
Q. 「家族といっしょに過ごすとき」あなたはどんな気持ちになりますか。（いくつでも）

■ 全体

600人

Q. 「家族といっしょに過ごすとき」あなたはどんな気持ちになりますか。（いくつでも）

(600人)



Q. 「家族といっしょに過ごすとき」あなたはどんな気持ちになりますか。（いくつでも・上位10位までの項目）

Q. 「家族といっしょに過ごすとき」あなたはどんな気持ちになりますか。（いくつでも・上位10位までの項目）

順位	小学生 (300人)	%	順位	中学生 (300人)	%
1	安心する・ほっとする	69.9%	1	安心する・ほっとする	62.0%
2	楽しい・笑顔になれる	60.3%	2	ありのままにいられる	58.0%
3	ありのままにいられる	51.3%	3	何も考えなくていい	50.3%
3	のんびりした気持ちになる	51.3%	4	のんびりした気持ちになる	48.0%
5	元気になれる	50.0%	5	楽しい・笑顔になれる	43.0%
6	にぎやかな・明るい気持ちになる	49.3%	6	にぎやかな・明るい気持ちになる	37.7%
7	何も考えなくていい	38.7%	7	元気になれる	35.0%
8	はげまされる・勇気づけられる	28.0%	8	はげまされる・勇気づけられる	24.7%
9	イライラする	10.7%	9	イライラする	9.3%
10	つかれる	4.7%	10	つかれる	6.7%

小学生は家族と「同じ時間・場所」の共有、中学生は「精神的な支え」が大事。

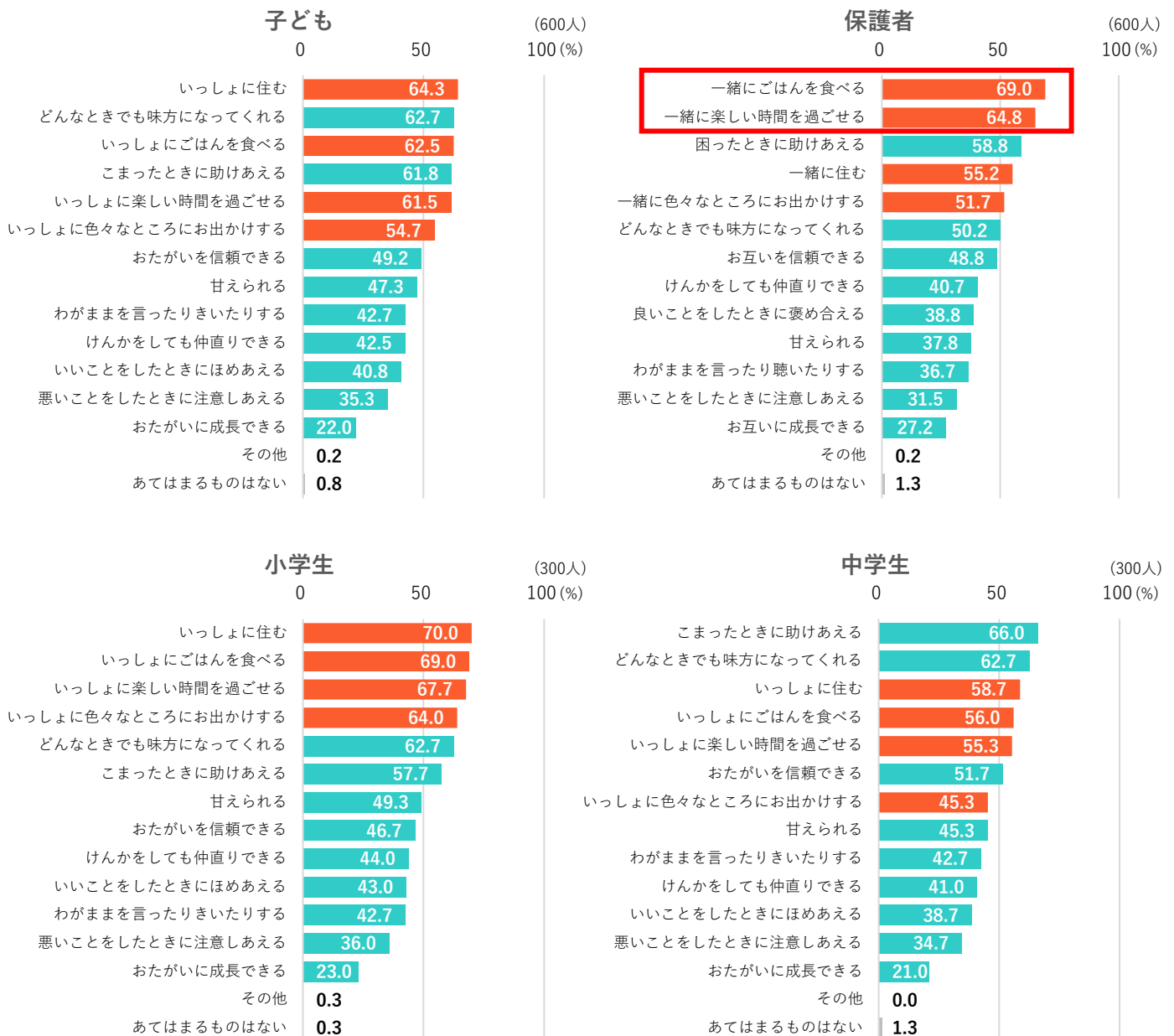
- 「家族にとって大事だ」と子どもが感じることでは「いっしょに住む（64.3%）」「いっしょにごはんを食べる（62.5%）」という「同じ時間・場所」の共有が上がるとともに、「どんなときでも味方になってくれる（62.7%）」「こまったときに助けあえる（61.8%）」「いっしょに楽しい時間を過ごせる（61.5%）」など「精神的な支え」に関する項目も6割以上で拮抗しています。
- 属性別では、小学生では相対的に「同じ時間・場所」を共有することの重要度が高いのに対し、中学生になると逆転し「こまったときに助けあえる」「どんなときでも味方になってくれる」など「精神的な支え」の重要度が高まることわかりました。
- 保護者にも同じ質問をしたところ、「一緒にごはんを食べる（69.0%）」「一緒に楽しい時間を過ごせる（64.8%）」が上位2項目として6割を超え、「同じ時間・場所」をより重視する傾向が見られました。

Q. あなたが「家族にとって大事ななあ」と感じることはどんなことですか。（いくつでも）

■ 全体

Q. あなたが「家族にとって大事ななあ」と感じることはどんなことですか。（いくつでも）

■ 「場所・時間の共有」項目
■ 「精神的な支え」項目



7 約7割が「もっと、家族と話したい」「もっと、家族の役に立ちたい」。

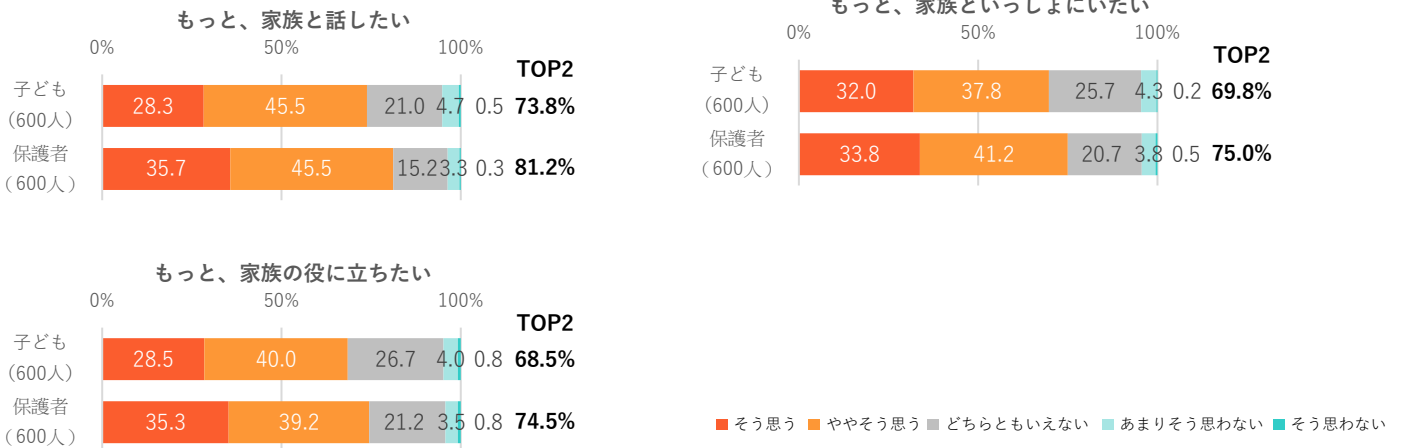
- 全体で見ると、「もっと、家族と話したい」がTOP2*で73.8%、「もっと、家族といっしょにいたい」がTOP2*で69.8%でした。
- 一方で「もっと、家族の役に立ちたい」がTOP2*で68.5%となっており、子どもたちも、家族の一員として貢献したいという気持ちを持っていることがわかりました。
- 属性別で見ると、学年があがるにつれいずれも低下していく傾向が見られ、中学3年生のスコアは小学4年生に比べて「もっと、家族と話したい」が27pt、「もっと、家族といっしょにいたい」が35pt低下。一方で「もっと、家族の役に立ちたい」も低下傾向は変わりませんが、その下がり幅は19ptにとどまっております。他2項目に比べてゆるやかになっています。
- 保護者にも同じ質問をしたところ、「もっと、家族と話したい（81.2%）」「もっと、家族といっしょにいたい（75.0%）」「もっと、家族の役に立ちたい（74.5%）」で、いずれも子どもよりも高いスコアとなっていました。

*（そう思う+ややそう思う計）

Q. 次について、それぞれあなたのお考えをえらんでください

■ 全体

600人



■ 学年別

	もっと、家族と話したい	もっと、家族といっしょにいたい	もっと、家族の役に立ちたい
小4 (100人)	88.0%	88.0%	80.0%
小5 (100人)	82.0%	78.0%	72.0%
小6 (100人)	78.0%	74.0%	74.0%
中1 (100人)	70.0%	65.0%	62.0%
中2 (100人)	64.0%	61.0%	62.0%
中3 (100人)	61.0%	53.0%	61.0%

多くが家族の存在や支えを当たり前と思わず、ありがたみを実感。

- 家族の存在を「ありがたいなあ」「うれしいなあ」と感じた出来事として挙げられたのは、食事や送迎といった普段の何気ないシーンから、頑張った自分を褒めてくれた思い出、進路や友達関係などで悩みを抱えている時に寄り添ってくれた時間など、多岐にわたりました。大小あれど「良い時には誰よりも褒めてくれ、悪い時は味方となり寄り添ってくれる」家族の存在にありがたさを実感していました。

Q. あなたがこれまでの人生で、家族に対して「ありがたいなあ」「うれしいなあ」と思ったできごとを、家族のだれと、どこで、どんなことがあったのか、なるべくくわしく教えてください。

食事や送迎などのサポート

- ・ お母さんがいつも家族のためにご飯を作ったり、洗濯したり、掃除したりしてくれる。学校で嫌な事があった時に担任の先生に解決できるように相談してくれる。(小4男子)
- ・ いつも当たり前だと思っていた、ご飯を作ってくれて、お弁当を持たせてくれることが、他の友だちには当たり前ではないことを知ってから、母にすごく感謝しています。父は休みになるとやりたいことを一緒にやれるようにいつも計画を立てるので、楽しみにしています。(中2男子)
- ・ お母さんは子供優先でいろいろしてくれること。普段から体づくりを考えたご飯を用意したり部活の送迎や試合の時お弁当作ってくれたりありがたいです。お父さんは普段あまり話さないけどポイントで助言をしてくれる。(中3男子)

勉強や進路についての助言

- ・ いま中2なので、高校進学についてちょっと考えていて、父も母も親身になって自分のやりたいことからいろいろな進路の可能性を調べて教えてくれること。うれしい。(中2男子)
- ・ テスト勉強等困ったときにお母さんや、兄弟が夜遅くまで一緒に付き合ってくれて助かりました。テストでは思った以上の成績を取りました。(中2男子)

友人関係や学校での出来事に対する相談

- ・ 学校で嫌なことがあった時学校を休みたいと言ったら怒らないで休ませてくれて好きなレストランに行ったこと(小4男子)
- ・ 学校で嫌なことがあっても家族に話すと嫌なことではなくなる。(小6女子)
- ・ 学校で友達と喧嘩してひとりぼっちになった時期に支えてくれたこと。お姉ちゃんと一緒に学校に行ってくれた。(中2女子)

病気や怪我のときのケア

- ・ 病気で学校を休んだ時にママが仕事を休んでそばにいてくれたこと(小4女子)
- ・ 僕が学校で頭を怪我をしたときに、すぐに学校まで迎えに来てくれて、病院に連れて行ってくれたときにありがたかった。(小5男子)

お出かけや旅行などの思い出とともに

- ・ おばあちゃんの家に行って、水族館に連れていってもらって帰りにオモチャを買って貰いお金もくれた。すごくうれしい日だった。(小5男子)
- ・ 泊まりで鈴鹿サーキットに連れて行ってもらって、たくさん遊ばせてもらってたくさんおいしいものを食べさせてくれて家族の仲がもっと良くなったと思った(小5男子)

家族の存在そのものへの感謝

- ・ 家族が当たり前のようにいっしょに住んでいられること。みんなでご飯を食べたり、遊びに行ったり、テレビをみたり。そんな当たり前のことを普通に過ごせることがうれしいと思う(小5女子)
- ・ 落ち着く場所があるところ(小5女子)
- ・ 私の居場所が必ず一つあること(中1女子)
- ・ いつでも安心していられる場所でみんなでいられるだけで嬉しい(中3女子)

腹がたつのは「自分の立場や意見を尊重してもらえなかった」と感じる時。

- 家族の存在を「腹がたつ！」と感じた出来事として挙げられたのは、兄弟喧嘩など理不尽なことで注意されたと感じた瞬間や、話をきちんと聞いてもらえず決めつけられたときなど、踏み込んでほしくないところを察してもらえなかったとき、親の機嫌に振り回されていると感じるときなどが挙げられ、「自分の立場や意見を尊重してもらえなかったと感じる気持ち」が、家族に対してのネガティブな感情につながっている様子がみられました。

Q. あなたがこれまでの人生で、「腹がたつ!」「ムカつく!」と思ったできごとを、家族のだれと、どこで、どんなことがあったのか、なるべくくわしく教えてください。

兄弟・姉妹の喧嘩

- ・ お兄ちゃんとゲームの事でケンカした時。(小4男子)
- ・ 妹がいたずらしてあやまらない。(小4男子)
- ・ 妹が僕の分のとうもろこしを食べちゃった事。(小6男子)

兄弟・姉妹での不公平感

- ・ 妹とケンカしたら、怒られることが多いこと。(小4女子)
- ・ 兄弟ケンカをしていて、お父さんに僕だけ怒られた、三人とも悪いのにムカついた。(小5男子)
- ・ 弟と喧嘩した時に自分は悪くないのに怒られたとき(中2女子)

勉強や宿題に関して怒られること

- ・ お父さんに学校の準備やお手伝いをやっているのにもうやったんかとしつこく聞かれる事。(小6男子)
- ・ 勉強しろとか宿題しろとかうるさく言ってきたのに。(小6女子)
- ・ テスト期間中に、母親がいつも勉強してるのかいちいち聞いてくること。(中1男子)
- ・ テストでダメだったとき、ものすごく怒られた。頑張る気力が失せた。(中3男子)

ゲームやスマホなどの時間制限

- ・ ゲームやタブレットのやり過ぎで怒られた時にムカついてしまう。(小5女子)
- ・ よくゲーム機を隠される事。(まあ時間制限を守らない自分が悪いのだが…)(小5男子)
- ・ ゲームをしたいのに時間制限をされたとき。(中1男子)

理不尽なことで怒られること

- ・ お父さんがお母さんもミスをしているのに、自分だけ叱ってお母さんのことは叱ったりしないこと(小5女子)
- ・ お父さんが理不尽に注意してきたり怒ったり反対してくること。(中2男子)
- ・ ちょっと機嫌が悪いと、いつもは言わないのに、洗濯物を畳んだり、お風呂を洗ったり、食器を洗ったりしろと家のことを手伝いなさいと口うるさく言うこと。今からやろうとしているタイミングで宿題はやったのかといいはじめること。(中3女子)

そっとしておいてほしいこと

- ・ お父さんにニキビがたくさんできた顔をバカにされたこと(小6女子)
- ・ 学校で友だちとケンカをしてしまったことについてあれこれしつこくお父さんに聞かれたことがすごく嫌でした。詳しく話をしないのは言いたくないからだと空気を読んで察してほしかった。(中3女子)

わかっていること・やろうと思ったことを言われる

- ・ やろうと思ったことを、やりなさいと言われた時。家の手伝いとか、片付けとか。(小6女子)
- ・ わかってることをくどくど言われるのがムカつく。(中2男子)
- ・ 信じてくれない(中3男子)

- 「どんなことでも構わないので家族に伝えたいことは？」と聞いてみたところ、多くが「ありがとう」の気持ち、「大好き」の一言、いつまでも健康でいてほしいと願う気持ち、ずっと一緒にいたい気持ちといった言葉があふれていました。
- 一方、日常生活の中でのささやかな、そして切実な願いごとも。しかし総じて家族への前向きな思いであふれる自由回答からは「家族の存在」そのものが子どもたちの強い安心感となり、それを当たり前と捉えずに、真っ直ぐに感謝する子どもたちの姿がみられました。

Q. あなたが家族に伝えたいことはありますか？どんなことでもかまわないので自由に書いてください。

感謝の気持ち

- ・ いつもありがとう。ぼくもみんなのことを助けたいから、いつでも言ってください。（小5男子）
- ・ この家族が僕の家族で良かった。（小6男子）
- ・ いつも私のことを考えてくれてありがとう。これからもいろいろ教えたりしてほしいです。この家族に生まれてきて良かった。毎日が楽しい。（中1女子）
- ・ いつも味方でいてくれてありがとう。家族がいてくれるから毎日楽しいし、嫌なことも忘れられて元気でいられるから本当に感謝しています。（中2男子）
- ・ いつもありがとうございます。働いてくれたり、家事をしてくれたり、お父さんとお母さん、疲れた時にはゆっくり休んでください。（中3女子）

大好き！な気持ち

- ・ いつもありがとう。大好きだよ。（小4男子）
- ・ いつもありがとうだいたいだいたいだいたいすきだよ———（小4女子）
- ・ みんな愛してるずっと一緒に居ようね。（小4女子）
- ・ ママ、大好き。（小5男子）
- ・ 産んでくれてありがとう。愛してるよ。（中1男子）

健康を願う気持ち

- ・ これからもずっと平和で健康で安全で元気に上手く仲良く一緒に過ごしたい。（小6女子）
- ・ これからも、健康で、普通に生活して行こうね。（小6女子）
- ・ これからも仕事や健康にきをつけて いっしょに暮して行きたいと思うことを伝えたいと思います（中2男子）
- ・ 友だちの両親で病気で亡くなった人がいて、すごく悲しいです。自分の両親には恩返しできるくらい、嫌というくらい長生きしてほしいです。（中2男子）
- ・ 祖父の葬儀で死を身近に感じた。健康で長生きして楽しい人生を歩んで欲しい。（中3男子）

もっと・ずっと一緒にいたい気持ち

- ・ お母さんともっともっと遊びたいです。今月はまだ遊べていないので、もっと遊びたいです。（小4女子）
- ・ 大好きなので、ずっと一緒にいたい（小5男子）
- ・ これからも、一緒に生きていこうね（小6女子）
- ・ ずっといっしょにいたい（中3女子）

いろいろなお願いごと

- ・ 社会の愚痴をこちらに言って来ないで（小4女子）
- ・ おかず毎日魚が出たら嬉しい。（小6男子）
- ・ もお少し部屋をきれいにしてください。（小6女子）
- ・ 私の好きを理解してほしい（中1女子）
- ・ 反抗期なのでかんべんしてください（中1男子）

編集後記

「家族」って何なんだろう？基盤であることの安心感と、近すぎる関係だから時にはうまくいかないことも、切っても切れない関係だからこそ、ともすれば“しがらみ”もあります。全部ひっくるめての「家族」であり、その様相・形はさまざまであるはず。

子どもたちの瞳には「家族」がどのように映っているのか。そんな思いが調査のきっかけです。

全員一緒に過ごせる時間は限られながらも、父親は「自分のことを応援」「困った時に助けてくれる」存在のほか、家族の世話や家事など4割超。母親も家事全般や相談相手など多くの項目でスコアが8割を超える結果と、子どもたちに映るそれぞれの役割の広がりが見えました。

家族の存在に対し、自由回答からは忙しい日々の中でご飯を作ってくれること、習い事や部活、勉強へのサポート、そして友人関係での悩み事に対して寄り添ってくれたことなど、たくさんの感謝の言葉が並ぶ一方、理不尽な怒られ方などへの小言も。

しかし、そんなときがあっても家族へ伝えたいことは「ありがとう」を筆頭に「大好き」「これからも健康でいてね」「ずっと一緒にいたい」。そんな率直な想いがあふれる言葉一つ一つから、子どもたちにとっては何か特別なことが大事なのではなく、毎日の生活の営みから生まれる関係性こそが大切なのではと感じさせられました。

「家族仲が良い」計は9割。仲の良さのみならず、家族がいてくれることへの感謝の背景にはもしかしたらコロナ禍や自然災害などの不安定な社会状況も要因としてあるのかもしれない。あらためて「仲の良さ」とはどこからくるのか、そもそも「仲が良い」とは何か。その概念自体への振り返りが必要だと感じています。

(研究員 田口)

調査概要

調査エリア

全国

調査対象

小学4年生～中学3年生の男女とその保護者（600組）

	(人)			(人)			
	男性	女性	計	父親	母親	計	
小学4年生	50	50	100	30代	35	77	112
小学5年生	50	50	100	40代	163	202	365
小学6年生	50	50	100	50代	83	40	123
中学1年生	50	50	100	合計	281	319	600
中学2年生	50	50	100				
中学3年生	50	50	100				
合計	300	300	600				

調査日

2024年9月22日

調査分析

公益財団法人 博報堂教育財団 こども研究所

調査方法

インターネット調査

実施集計

QO株式会社

調査パネル

株式会社 マクロミル

子どもの回答にあたっては、保護者の同意のもとで行っております。